平成２９年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立岐阜聾学校　事業実施報告書①

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　岐阜県　】

１実践テーマ	【　Ⅰ　・　Ⅴ　】
２実施対象者	岐阜聾学校　中学部全生徒（１２名） 高等部全生徒（２９名） 職員及び、保護者
３展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（　　） ②　行事名（　オリンピアンによる講演会　） ③　その他（　　） （２）地域における活動 ①　イベント名（　　） ②　その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	・オリンピアンによる講演、体験活動を通して、スポーツに対する興味や関心を高め、スポーツに取り組む心の育成を図るとともに、オリンピックや世界の文化等を知るなど、国際理解を深める機会とする。
５　取組内容	（１）事前学習 ・体育担当者による陸上競技『３０００m障害』の説明と、オリンピック出場を決めた『日本選手権』でのレース映像の視聴をする。

（2）事業当日

『オリンピアンによる講演会』

講師：高見澤　安珠選手（松山大学４年）

リオ・オリンピック陸上競技日本代表（３０００m障害）

① 講演『夢をつかみとるために』

【主な講演内容】

・自己紹介（経歴・主な成績）
・３０００m障害について
・オリンピック出場までの道のり
・オリンピックや選手村の様子
・オリンピック出場等の経験から学んだこと
「挑戦」「諦めない」「感謝」
「夢をもっていれば、必ずチャンスはやってくる」
・次の目標「東京オリンピックで8位入賞すること」

※質疑応答

② 体験活動『長距離が速くなるための動きづくり』

【主な体験内容】

・準備運動、ウォーミングアップ
・股関節の動かし方
・ランニングフォーム（腕の振り方等）
・体幹トレーニング

※質疑応答

・お礼のことば、記念撮影

（3）事後学習

・体験活動終了後、講演会及び体験活動についての感想を記入し、提出する。

６　主な成果	・オリンピアンによる講演会を通して、『チャレンジすること』や『諦めないこと』、『感謝すること』の大切さを学ぶことができた。また、リオオリンピックの様子についても、知ることができ、オリンピックをより身近に感じることができた。 ・体験活動を通して、体の動きづくりや体幹トレーニングの仕方を学び、生活の中で学んだことを生かそうとする姿が見られた。 ・生徒の感想より 『一番心に残った言葉は「最後まであきらめずにチャレンジする」「夢をもち、生きていれば必ずチャンスはめぐってくる」です。大会の映像で安珠さんは転んでもあきらめずに走っている姿を見て感動しました。私はあきらめることが多いのでこれからは時間がかかってもチャレンジし続けたいと思いました。今回速く走る方法を学ぶことができて光栄でした。安珠さんの夢を応援しています。』 『今回の講演を聞いて、自分にも夢があるので諦めない心が大事だと思いました。実技では長距離走のコツを教えてくださいました。体育で持久走があるので今日学んだことを生かせるようにメモをし、前回の記録を更新したいです。走るのは苦手だけど今回を機に長距離をやってみたくなりました。』 『高見澤選手の講演を聞いて陸上をやるきっかけや選手村、オリンピックの魅力についてわかりました。レースで転倒しても持ち直してリオ・オリンピックの切符をつかめたことがすごいと思いました。また、オリンピックで外国人との力の差を感じても前へ進もうとする姿勢を見習いたいと思いました。目標である８位入賞目指して頑張ってください。応援しています。』
７実践において工夫した点（事業の特色）	・講師選定には、本校の運動部活動の競技種目に配慮することで、生徒にとってより身近に感じられるオリンピアンを依頼した。 ・情報保障のため、手話通訳者２名を派遣していただき、講演会及び体験活動を行った。
８主な課題等	・講演内容が理解しやすいように、今回のようにプレゼンテーション等を使っての講演を依頼していくこと。 ・情報保障のための手話通訳者の派遣依頼や、体験活動中の情報保障の仕方について工夫が必要であること。
９来年度以降の実施予定	・予算的な問題もあるが、本校卒業生に『デフリンピック』に出場した選手がいるので、同様な講演会等を開催できるように、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。